

につきては、近來既に定説あり、小生は、屢他
 の雜誌にも小生の見なり、外國雜誌に散見する新
 説を紹介した。其議論の神秘的なるは、何人も疑
 惑を挾む所、従つて、其方法も此議論から割り出
 された所から、現今でも尙随分、不合理なやり方
 をやつて居るのは情ない話である。君の恩物に對
 つて價値の疑ふべしとする第一點も、若し此議論
 から割り出した方法に由ると、全く有理な疑問で
 ある。夫から一体此恩物は、普氏が、雨中の徒然
 の時子供を室内で遊ばせる折（晴天で都合のよい
 時は大低郊外で遊ばせた）の玩具として與へたも
 のだから、小細工のでもあり、且つ多くは机上の
 てばまに屬するのは當然のことで、従つて、保育者
 が、單に恩物丈を尊重して他の保育の方便を顧
 みないといふのは間違つた話で、宜しく祖師に倣

つて、恩物は室内的のものとして、別に室外に於
 て、大に子供の活動性を満足せしめる方便を採用
 せんければならぬと思ふ。
 其他遊園につきて君の述べられたる事ども、一々
 時弊に適中した明言といはねばならぬ。
 文辭に習はぬ所から、君の厚意に對して、或は禮
 を失つた所がないかを恐れる、幸に寛容を祈るの
 である。

雜 報

大阪市保育會

京坂神聯合保育會の一たる大阪市保育會は、會
 長に同市女子師範學校長大村芳樹氏、副會長に
 全校教諭杉山外世四郎氏當られ、全市幼稚園關係

者一同會員となりて組織せられ居るものにて、市の保育界に向つて貢獻する所甚だ多く、有力なる市の教育上の一機關たるが、本年は、市を始め他の郡區に於ても、時局の爲め、一も講習會等の催なさに當り、尙且つ奮つて、保育の講習を開くと、先月十五日より向ふ一週間、女子高等師範學校教授東基吉氏を聘して、保育法の講習を開きたり、會員は、大阪市に百三十名餘奈良京都神戸より十四五名、計百五十人許、午後一時より四時まで、日々の炎熱を物ともせず、何れも熱心聴講せられ、終りて會長より講習證書を授與せられたり、由來、小學校教師、中學校教師等の爲には、至る處、講習會等の催ありて、新知識、新思想の收得に便せしむる機關の設ありといへども、獨り幼稚園保育者のために、かゝる機會の設

けられざるは、甚だ遺憾とせし所にして、若し、幼稚園保育者の時代に後る、恐ありとせば、そは全く之に原因するものといふべきなり。大阪市保育會の早く此處に見て此舉ありたるまことに時弊に適中したるものといふべし。

會費領收 至全 自明治卅七年七月一日 至全 七月廿四日

金額	年月日	姓名
五〇	三七、五	波多野とく
一〇	三八、五	桑原いはほ
三〇	三七、三	谷本 寛
五〇	三七、三	湯川さだ
五〇	三七、二	岡澤やへ
五〇	三七、二	外山 茂
六〇	三七、一	村川 愛
六〇	三六、六	柴田かづ
一〇〇	三七、八	今井千代子
六〇	三七、七	鈴木れい
三〇	三七、五	山岸たよ
二〇	三七、一	高安 晋妻

三〇	三七、一——三七、三	上池マカト
一〇〇	三六、一——三七、一〇	野尻てつ
一〇〇	三六、一——三七、一〇	小谷野千代
二〇	三七、五——三七、六	小原藤枝
六〇	三七、七——三七、一二	矢野かつ
一〇	三八、二	戸野みち
二〇	三七、五——三七、六	下村三四吉
一〇〇	三七、三——三七、一二	波佐谷みち
二〇	三七、三——三七、四	伊藤弘一
二〇	三七、五——三七、六	矢作てつ
二〇	三七、五——三七、六	後関菊野
二〇	三七、五——三七、六	西島富壽
二〇	三七、五——三七、六	今立裕
二〇	三七、五——三七、六	堀越源次郎
二〇	三七、五——三七、六	吉村千鶴
二〇	三七、五——三七、六	伊藤せい
六〇	三七、七——三七、一二	土井たま
一〇〇	三六、一——三七、八	永田けい
一〇〇	三七、一——三七、一〇	神通せき
一〇〇	三六、九——三七、六	岡田みつ
二〇	三七、五——三七、六	鳥居鍬三郎
二〇	三七、五——三七、六	大羽ひさ
二〇	三七、五——三七、六	南摩まき
二〇	三七、五——三七、六	山口西三郎

二〇	三七、五——三七、六	小池みつ
一〇〇	三六、七——三七、四	富岡龜門
二〇	三七、五——三七、六	高橋忠次郎
二〇	三七、五——三七、六	町田則文
二〇	三七、五——三七、六	喜多見佐喜
四〇	三七、三——三七、六	中村五六
二〇	三七、五——三七、六	斯波やす
二〇	三七、四——三七、八、三	岩瀬かよ
二〇	三七、四——三七、五	藤岡とき
一〇	三七、六	藤井とよ
一〇	三七、六	牧あさを
一〇	三七、六	鈴木きん
一〇	三七、六	田副つる
一〇	三七、六	土方ひさ
一〇	三七、六	渡邊のぶ
一〇	三七、六	酒井たね
一〇	三七、六	山下ふさ
五〇	三七、六——三七、一〇	西浦りつ
一〇〇	三七、一〇——三八、七	大塚さだ
五〇	三七、五——三七、九	尾田けい
二〇	三七、五——三七、六	神田順
二〇	三七、五——三七、六	谷田部じゆん
二〇	三七、五——三七、六	伊藤弘一
二〇	三七、五——三七、六	武田きん

二〇 三七、五—三七、六 立花 はる
 二〇 三七、五—三七、六 林 蝶
 二〇 三七、五—三七、六 佐伯 外浪
 一〇〇 三七、七—三八、四 秋山 恒子
 七〇 三六、四—三六、一〇 小々 高操
 二二〇 三七、一—三七、二二 町 田 孝
 七〇 三七、一—三七、七 西川 かめ
 一〇〇 三六、七—三七、五 鎌田 なか
 六〇 三七、四—三七、九 近藤 しげ

寄 附

一金貳圓

會員松村久子氏より本會雜誌部に寄附せらる(三十七年七月)

一金壹圓五拾錢

會員田中文字氏より本會雜誌部に寄附せらる(三十七年七月)

入 會

千葉縣千葉幼稚園

渡邊 うめ

陸前國桃生郡儂來村

右紹介東基舌 松浦 かめよ

長崎縣東彼杵郡日宇村小學校

右事務所申込 楠本 勝一

東京本郷區龍岡町一五

右事務所申込 松島 八重
右紹介田中ふみ

沖繩縣國頭郡羽地間切眞喜屋村一、

上地 マカト

大分縣大分郡野津原村

右事務所申込 矢野 かつ

埼玉縣入間郡金子村大字中神

右紹介富田しげ 桑田 勝子

轉 居

女子高等師範學校へ

田淵 みす

京橋區京華小學校へ

忍田 ちよ

神戶市中岸七丁目番外十三番屋敷へ

波多野 あぐり

愛知縣知多郡龜崎幼稚園へ

山田 しう

千葉縣大原町松濤館へ

廣瀬 豐十郎

神田區駿河台鈴木町九番地へ

佐藤 むめ

本郷區三組町十七番地へ

鈴木 れい子

麴町區富士見町六ノ四

青戸 さく

京都市町荒神上ル宮垣町へ

相川 のぶ

本郷區春木町三ノ四〇成川方へ

高安 吾妻

日本橋區藥研町一〇藤井方へ

池田 その

下谷區下根岸一五

太田 とめ

本郷區駒込東片町一四小林方へ

川島 みつ

東京府第三高等女學校へ

永田 かい

兵庫縣明石女子師範學校へ

池袋 すが
菊池 敦世

改 姓

三十七年七月廿一日 會費領收 (第四卷第五號に
掲載すべき分の一部)

金額	年月	姓名
一一〇	三七、四	山田 ちよ
一一〇	三七、四	野口 ゆか
五〇	三七、四	安達 かつ
五〇	三七、二	高野 ちよ
一一〇	三七、五	奥野 まさ
六〇	三七、三	後藤 りん
一一〇	三七、四	田中 ふさ
一〇	三七、四	關 仁三郎
六〇	三七、四	小杉 さと
二〇	三七、四	柴岡 てる
二〇	三七、四	吉田 しう
六〇	三七、四	早川 いし
六〇	三七、四	安藤 ゆき
二四〇	三六、四	志村 たか
三〇	三七、二	小西 すみ
六〇	三七、三	内田 かね
六〇	三七、四	大橋 いぬ
六〇	三七、三	稻葉 かね

安野 改 伊藤 みち
田邊 改 安野 なか

一〇〇	三七、三	關 すが
五〇	三七、四	十文字 こと
六〇	三七、五	瀧澤 よう
六〇	三七、五	相賀 よし
六〇	三七、四	一色 とよ
一〇〇	三七、四	野澤 あい
五〇	三六、一	北野 はる
六〇	三六、一〇	大山 千代
三〇	三七、四	淺岡 はま
六〇	三七、四	成瀬 きよ
三〇	三七、四	山崎 いよ
一一〇	三七、四	松本 菊次郎
一一〇	三七、四	吉岡 美馬
一一〇	三七、四	吉住 幾江
六〇	三七、五	近藤 はま
一〇〇	三七、五	後藤 いと
一〇〇	三五、一	小西 信八
三〇	三七、四	福田 ふく
一〇〇	三六、七	吉澤 とも
一〇〇	三七、四	伊藤 いつき
三〇	三七、四	妹尾 明
五〇	三七、五	千葉 秀
五〇	三七、四	佐々木 まさみ